

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2019.3 March vol.46-3

二月定例議会一般質問概要

人に寄り添う取り組み

子どもオンブズ制度の導入を

2月12日から3月1日まで定例議会が開かれ、知事提案、平成31年度一般会計予算や30年度補正予算などの予算案、法律改正に伴う手数料改定条例案など76件はすべて可決し、2件の特別委員長報告も採択しました。また、今期で退任される溝口知事に対して、議員提出による「感謝決議」を行い、大屋議長から感謝状が手渡されました。

今回は人を育てること、人を支えることに取り組む施策の充実を求めて、今期、取り上げてきた課題について質問しました。私の一般質問は、次の通りです。

子どもの権利擁護の取り組み

放課後や休日に障がい児を預かる「放課後デイサービス」の事業所内で利用者の女兒が施設の職員から虐待を受けていたとして、運営会社の社長と指導員が逮捕される事件がありました。



子どもオンブズパーソン制度の導入を求めるが、考えを聞く。

健康福祉部長 国では、平成29（2017）年に新たな社会的養育ビジョンが示され、県では社会的養護体制推進計画の見直し作業を進めている。再来年度から10年間を計画期間とした島根県社会的養育推進計画を来年度中に策定する予定。計画の議論の中で、子どもオンブズ制度について、項目として取り上げ皆さんに議論をしていただく考えである。

幼児教育センターの充実へ

今年度4月に幼児教育センターが設置され、幼稚園教諭、保育士などの資質や保育所・幼稚園の教育力の向上に向けた県による支援の取り組みが始まりましたが、さらなる取り組みが必要と見られます。

認可外保育施設について、幼児教育センターの対応はどうなっているのか。

健康福祉部長 認可施設と同様、認可外保育施設も訪問を始め、集合研修（裏面へつづく）

4期目への決意

角ともこは、これまで「みんなが笑顔で暮らせる島根づくり」に取り組んできました。これからも、働く人、生活者の立場に立ち、女性の視点を生かして、みなさんの声を議会に届けます。未来ある子どもたちがすくすくと育つ環境づくり、子どもの育ちを支える大人が働き甲斐をもって働き続けることができる職場環境づくり、生きがいを持つて暮らし続けることができる地域づくりに、全力で取り組みます。元氣な島根づくりのために、4期目を目指して県議会選挙に挑戦します。



大勢の人たちに激励を受けた総決起集会

の開催や相談対応など、各種支援の対象としている。認可外保育施設に対し、幼児教育の無償化について説明会を開催する予定で、その際にセンターの活用について周知する。引き続きセンターの活動を通じ、各施設における教育、保育の質の確保、向上が図られるよう努める。

生活困窮世帯の

子どもへの学習支援

♥生活困窮世帯の子どもを支援する予算を確保し、必要な人員確保と体制づくりにつながる仕組みが必要だが、いかがお考えか。

健康福祉部長 生活困窮世帯

の子どもの支援には、学校や学習支援の場で発するサインに

気づき、いち早く生活困窮者支援の窓口である自立相談支援

機関につながる仕組みづくりが重要。県では、自立相談支援機関の職員に対する研修を毎年行っている。こうした人材育成を継続しながら、より効果的な支援につながるよう努めていく。

総務委員会で質疑

一般質問で取り上げなかった課題議論

今議会の総務委員会で、いくつかの点について質問、要望しました。

再生可能エネルギーの

利活用推進を

昨年度の決算審査でも、市町村と協力して再生可能エネルギーの利活用を広めてほしいと要望しましたが、新年度の地域振興部所管予算では、今年度当初予算より少なくなっています。再度、利活用に積極的に取り組むよう要望しました。

答弁では、他の部局においても再生エネルギー利活用の予算が組みまれており、それらを合わせる今年度並みであるということでしたが、積極的な取り組みを求めます。

元号と西暦の併用を

5月に予定される元号改正によって、今後、二つの元号がいろいろな場面で出てくることも考えられ、西暦との併用を進められたいと要望しました。



法務専門官の採用を

松江市では弁護士資格を持つ専門の職員を採用しており、県も採用について考えるべきではないかと指摘しました。児童相談所への弁護士配置が求められていますし、そのほかにも県民と接する中で法律に触れることも多く、弁護士の活躍が期待されます。

また、特殊詐欺への対応強化、信号機の設置・更新予算の確保についても要望しました。

一人ひとりの意見を尊重する社会に

雲南市周辺に住む女性たちと懇談

2月6日、雲南市及び近郊在住の女性を中心とした皆さんでつくる団体「あげそげ！」

はっけんぐみ」が開いた座談会に参加しました。「議員つてどんなことしているの」という疑問から、議員に直接聞いてみようというところで開かれ、3人の雲南市議会議員の皆さんと県議会議員の私の4人が参加しました。

議員のなり手不足について、参加者から「北欧などでは夜に議会を開く取り組みによって他の仕事を持ちながら議員活動している」などが紹介されました。私たち議員の側からは、兼職で議員ができることは良

い、それには雇用主や周りの人たちの理解が必要で、仕事を早く切り上げて議会に出向くことや、調査が必要なきに有給休暇が取れる環境などがあれば可能ではないかといった意見が出ました。

お茶を飲みながらざっくばらんに意見交換の場を作っている「あげそげ！はっけんぐみ」の活動に、私も含め議員の皆さんも、有意義な取り組みと称賛していました。いろいろな世代の人たちが、みんなで意見を出し合う場をつくってほしい、議員の出やすい環境がつけられていくでしょう。

また、特殊詐欺への対応強化、信号機の設置・更新予算の確保についても要望しました。

